

今日のトピック 米国の金融政策は現状維持（2018年5月） 今後も緩やかな利上げを継続する見通し

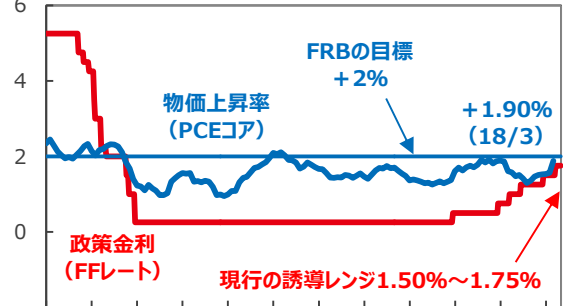
ポイント1 政策金利を据え置き 全会一致の決定

- 5月1日～2日に開催された米連邦公開市場委員会（FOMC）は、市場の予想通り、政策金利（FFレート）の誘導レンジを1.50%～1.75%で据え置くことを、全会一致で決定しました。

ポイント2 経済に対する評価も修正なし 多少の物価の上振れは容認

- FOMCの声明文によれば、「経済は堅調な速度で成長し、労働市場は引き続き力強さを増した」との評価を維持しました。先行きについても、「緩やかな経済活動の拡大と、力強さを維持する労働市場」を予想しています。
- 18年1-3月期の実質GDP成長率は前期比年率+2.3%と、前期の同+2.9%から鈍化しましたが、FOMCは一時的な減速と判断したもようです。
- 物価については、前回の中期的に「目標の+2%近傍で安定する見通し」から、「+2%を中心とする上下対称的な目標値の近傍で推移する見通し」に修正されました。おそらく物価上昇率が目標値を上回っても、小幅であれば容認する姿勢であることを示唆していると考えられます。

【政策金利と物価上昇率の推移】



(注1) FFレートは2007年1月5日～2018年5月4日。2008年12月以降のFFレートは誘導レンジの上限を表示。
(注2) 物価上昇率はPCE（個人消費支出）コア物価指数の前年同月比で、2007年1月～2018年3月。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【FOMC参加者の経済見通し】

項目	開催月	2018年	2019年	2020年
GDP成長率 (%)	3月	2.7	2.4	2.0
	12月	2.5	2.1	2.0
失業率 (%)	3月	3.8	3.6	3.6
	12月	3.9	3.9	4.0
物価上昇率 (%)	3月	1.9	2.1	2.1
	12月	1.9	2.0	2.0
FFレート (%)	3月	2.1	2.9	3.4
	12月	2.1	2.7	3.1

(注1) 開催月は直近のFOMCが開催された月。12月は2017年12月。
(注2) FOMCメンバーによる予測の中央値。GDPと物価上昇率は10-12月期の前年同月比。物価上昇率はPCE（個人消費支出）コア物価指数の上昇率。失業率は10-12月期の平均値。FFレートは各年末時点における誘導レンジの中間値。
(出所) FRBの資料を基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 FRBは「緩やかなペースでの利上げ」を継続する見通し

- 景気、雇用が順調に拡大していることから、FOMCは今後も利上げを継続する見通しです。物価上昇率は目標とする+2%に接近してきましたが、FOMCの「物価の多少の上振れは容認」という姿勢を踏まえると、利上げの速度は引き続き緩やかなものとなる可能性が高いと考えられます。
- FOMCが開催された5月2日の米国市場では、債券利回りは前日比ほぼ横ばいとなりました。朝方は雇用関連指標の内容が良好だったことから、債券価格は下落（債券利回りは上昇）しましたが、公表されたFOMC声明文の内容が当初の予想ほどタカ派的ではなかったため、買い戻されました。

ここも チェック!

2018年5月2日 米国の『実質GDP』は一時的に減速
2018年4月26日 米労働市場に『需給のミスマッチ』はあるか？

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。